

平成30年度 樟蔭中学校・高等学校 学校評価

1 めざす学校像

<p>「高い知性」と「豊かな情操」を兼ね備えた、社会に貢献できる女性の育成をめざす</p> <ol style="list-style-type: none"> 自ら学び、自ら考える力を養う総合的な学力を育む 自らの興味・関心を深め、能力・適性をさらに伸ばし、将来の目標を達成する力を育む 自らの判断に基づいた行動ができる自立性と、社会生活や学校生活における規範意識の涵養に努めるとともに、様々な教育活動を通して豊かな人間性を育む
--

2 中期的目標

<ol style="list-style-type: none"> 学力の育成 <ol style="list-style-type: none"> 授業の充実 朝の学習や補習の充実 新しいカリキュラムに基づいた授業の実施と各コース目標の達成 生徒へのサポート 豊かな人間性の育成 <ol style="list-style-type: none"> 生活指導を通じた“Little Lady”の育成 発達段階に応じたキャリア教育の充実 励まし合いや思い遣りの心を養う教育活動の充実 進路の保証 <ol style="list-style-type: none"> 高校3年生の進路希望の100%実現 中学生及び高校1年生・2年生に対する発達段階に応じた進路意識の育成 教員力の向上 <ol style="list-style-type: none"> 授業力の向上 教職員の学校運営に係る体制づくり 教員研修と資質の向上 入学生の確保 <ol style="list-style-type: none"> 「樟蔭ブランド」のアピール 新しいコースの取り組みについての徹底した広報活動 施設設備の充実 安全安心な学校づくり <ol style="list-style-type: none"> 教育相談の充実 安全確保の徹底
--

3 平成30年度の取組内容及び自己評価

	平成30年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	取組状況・達成状況・今後の改善方策
1 学力の育成	(1)授業の充実	ア.電子黒板やiPadなどの教育ICTを活用した、より魅力ある授業の展開 イ.女子校の特性を生かした学び合いによるグループ学習などのアクティブ・ラーニングの実践 ウ.発表の機会をより多く設けるなど、生徒のプレゼンテーション力の育成	ア～ウ 取組の有無 アンケート	ア.教員アンケートによると、電子黒板を利用している教員は約60%。他にiPadやTVを利用する教員も。(○) イ.グループ学習を授業に取り入れている教員は約50%(○) ウ.ほとんどの教員が、授業内容や方法についての工夫・改善に取り組んでいるという回答。(○)
	(2)朝の学習や補習の充実	エ.これまでの総括を踏まえた、より効果的な朝の学習の実施 オ.明確な目的のもと、個々の生徒の実態に応じたきめ細かな放課後補習の実施	エ・オ 実施の有無	エ.中学1年の百マス計算や音読から始まり、中高におけるリスニングや小テスト、ペン字や読書など到達度を見ながら内容を変えて実施。(○) オ.希望者補習や指名補習など、きめ細かく実施。(○)
	(3)新カリキュラムの実施	カ.新カリキュラムの実施と各コースの目標達成に向けた特徴ある取り組みの検討・実施 キ.新コースの目標達成に向けた学習における学力到達度や授業満足度の把握 ク.カリキュラム編成におけるPDCAサイクルの確立	カ・キ 実施の有無 アンケート ク 実施の有無	カ.教務部や各コース主任を中心に、進行管理と点検を実施。取り組みの修正は適宜。(○) キ.定期テストや小テスト、外部模試などを活用。コース別の授業に対する評価は、中学高校ともにコースによりばらつきはあるが、肯定的な回答の割合は平均すると、中学は80%強、高校は90%弱。(○) ク.教務部や各コース主任、管理職が中心となり取り組みを実施。(○)

1 学力の育成	(4) 生徒へのサポート	ケ. 担任や教科担当等による生徒の学力や学校生活状況の把握と共有 コ. 担任による定期的な個人面談の実施 サ. 学年と関係する校務分掌との連携による個々の生徒の学力向上をサポート シ. 「キャリアサポート制度」の充実	ケ～シ 実施の有無	ケ. 各学期末の成績や模擬テスト等の結果を関係者で共有。また日々の生活状況についても適宜意見交換。(○) コ. 全員の保護者懇談は年2回実施。担任による個人面談は適宜実施。(○) サ. データや情報の共有を図っている。(○) シ. 一部修正した新しい制度を開始。(○)
2 豊かな人間性の育成	(1) 生活指導を通じた“Little Lady”の育成 (2) 発達段階に応じたキャリア教育の充実 (3) 励まし合いや思い遣りの心を養う教育活動の充実	ア. 挨拶・言葉遣い・身だしなみ指導の全校的取り組みの推進 イ. 授業や集会に取り組む姿勢など、集団生活におけるマナー指導の徹底 ウ. 情報モラル教育の徹底 エ. 生徒に望ましい職業観・勤労観及び職業に関する知識を身に付けさせるための有効な取り組みを検討・実践 オ. 興味・関心や能力・適性を理解し、将来について考えさせる段階的な取り組みを検討・実践 カ. 年間キャリア教育プログラムの作成 キ. 担任による個別相談等のキャリア・カウンセリングを実施 ク. 人権教育のさらなる充実 ケ. 視聴覚行事や校外活動、図書館活動の目的の再確認と進化 コ. 様々な学校行事やHR活動、クラブ活動などを通じた仲間づくりと自主性の育成 サ. 特別な配慮を必要とする生徒へのサポート体制づくり シ. 「樟蔭スタイル」の導入・定着による望ましい人間関係づくり	ア・イ 実施の有無 アンケート ウ 実施の有無 エ～キ 実践の有無 ク～シ 取組の有無	ア・イ. 挨拶運動や登下校指導、集会時の指導の実施に加え、日常の学校生活における注意等により効果は上がっている。「挨拶をよくしている 中学93%、高校85%」「ルールをよく守っている 中学93%、高校92%」(○) ウ. 実施した。(○) エ～キ. 進路指導部主導の高大連携講座や資格取得講座をはじめ、様々な説明会や体験行事を実施。また、高2・高3の進路HRにおける小論文対策講座など、HR等でいろいろな機会を利用して進路意識を高めている。年間キャリア教育プログラムについては、作成し教室等に掲示をするとともに適宜更新している(○) ク. 弁護士による女性の人権授業や北海道修学旅行前のアイヌ民族についての人権学習などを実施。(○) ケ. 学外での芸術鑑賞行事や中学校外学舎、夏の高原学舎やスキー学舎など実施。図書館通信・アンケート等を活用した図書館活動も充実。(○) コ. 積極的な生徒自治会の役員を中心に、体育祭や文化祭、各種委員会も生徒主体で行われている。また、中高合同の自治会活動が多く、自治会執行部役員だけでなく、その次のリーダーの活動も活発になってきている。(○) サ. サポート会議を適宜実施するなど、きめ細かな取り組みを進めている。(○) シ. 細部の工夫・修正をしながら取り組んでいる。(○)
3 進路の保証	(1) 高校3年生の進路希望の100%実現 (2) 中学及び高校1年・2年に対する発達段階に応じた進路意識の育成	ア. 学年と進路指導部の連携による、進路情報の周知やきめ細かな進路相談の実践などの進路指導体制の強化 イ. 進路実現に向けての講習や補習、講演会や体験活動など、適切なサポート体制の再構築 ウ. 看護医療・芸術身体のコースに対応する大学との連携による出口枠の拡大と保証 エ. 卒業生による進路講演の実施 オ. AO入試や推薦入試への対応に向けた小論文指導・面接指導の充実 カ. 大阪樟蔭女子大学各学部学科との連携強化 キ. 担任を中心とした、生徒一人一人の学力の把握と進路目標についての適切なアドバイス ク. 進路指導部による様々な行事の継続・充実と適切なフォローアップの実施 ケ. 進路ニュースの発行 コ. 英語検定・漢字検定・数学検定等各種検定の実施	ア～カ 取組の有無 キ～コ 取組の有無	ア～カ. 希望する進路の実現に向けて、個人面談や進路HRを適宜実施して、きめ細かくサポートしている。小論文や面接に対しては、対策チームを設置して取り組んでいる。内部進学希望の生徒には、樟蔭女子大の教員による説明会や面談体験などを実施。外部大学進学希望生には志望校に応じた模擬試験を受験、個人面談において結果の分析・アドバイスを繰り返し行っている。(○) キ～コ. 【中学】 全員受験の模擬試験を年間5回実施し、結果を分析・共有。生徒とも適宜面談している。また、オリエンテーション合宿や勉強合宿の実施、計画的な進路HRで進路意識の育成を図っている。(○) 【高校1・2年】 各コースの進路目標に応じた模擬試験や進路HRを計画的に実施。各種補習や小論文指導などを通じて、目標達成への自主的な取り組みができるように導いている。また、大学の教員による出張講座や学部学科説明会により進路意識を高めている。(○)

4 教員力の向上	<p>(1) 授業力の向上</p> <p>ア. 管理職による教員の授業力向上に向けた指導・助言と様々な企画等の推進 イ. 授業アンケートの実施と結果の活用による授業力の向上 ウ. 研究授業の実施による授業内容・方法の相互チェックと改善 エ. 「電子黒板 ST」や「グループ学習 ST」などのリードによる授業改善への取り組み オ. 校内授業研究チームによる教科横断の相互授業研究</p> <p>(2) 教職員の学校運営に係る体制づくり</p> <p>カ. 運営委員会の活性化と、それを通じたミドルリーダーの育成 キ. 「評価・検討プロジェクトチーム」などの特任化した機動性のある組織の活用 ク. 「デスクネッツ」の活用による会議のリストラ</p> <p>(3) 教員研修と資質の向上</p> <p>ケ. 「到達目標システム」による目標設定と達成度チェック、管理職との面談 コ. 管理職による授業観察やアドバイスと、生徒による授業アンケート結果の授業への反映 サ. ICT 機器の活用に向けた技術習得研修の実施 シ. 生徒や保護者への対応能力と危機管理意識の向上に向けた教員研修の実施</p>	<p>ア～オ 取組の有無 アンケート</p> <p>カ～ク 取組の有無</p> <p>ケ～シ 実施の有無</p>	<p>ア・イ・ウ. 生徒全員による教科担当全員対象の授業アンケートを7月に実施。結果は個人別・教科別でまとめ、全員に提示。評価の高い教員の授業を見学。(○) エ. 電子黒板等を活用した教育 ICT の充実へリードする電子黒板研究チーム、学び合いを中心とした授業方法の改善に取り組むグループ学習研究チームがそれぞれ活動しているが、さらなる工夫が必要。(○) オ. 一部の教科が教科横断の授業研究を実施。(△)</p> <p>カ. 学校の運営に係る議論を活発にして、ミドルリーダーの育成をめざしているが不十分。(△) キ. どの分掌にも属さない緊急性のある諸課題について、希望者からなるチームで迅速に対応できるように努めている。(○) ク. 十分に活用できている。(○)</p> <p>ケ. 提出された目標設定シートをもとに、管理職と面談を実施している。(○) コ. すべての授業を観察し、生徒による授業アンケートの結果も踏まえて面談している。(○) サ. できるだけ多くの教員が参加できるように、日時の設定にも配慮している。(○) シ. 管理職による研修を年4回実施。(○)</p>
5 入学生の確保	<p>(1) 「樟蔭ブランド」のアピール</p> <p>ア. 教員や生徒・保護者アンケート結果を踏まえた「樟蔭ブランド」の再確認と、新たなブランド作りへの取り組み イ. これまでの広報活動の検証を踏まえ、広報室を中心とした学校全体による組織的・積極的な広報活動のさらなる展開 ウ. 学園広報との連携の強化とマスコミへの積極的な働きかけ エ. 地元をはじめ、様々なイベントへの積極的な参加・協力 オ. リニューアルしたホームページのさらなる活用 カ. 公立中学校に特化したより効果的な広報活動の工夫と実践 キ. 広報イベントのあり方の検討と実践 ク. 様々な広報ツールの開拓と実践</p> <p>(2) 新しいコースの取り組みについての徹底した広報活動</p> <p>ケ. 中学校及び高校に設置したコースについての目標や学習内容の積極的周知活動 コ. 中高大の連携による体系的な教育体制の構築と広報</p> <p>(3) 施設設備の充実</p> <p>サ. 14号棟・19号棟・20号棟のトイレ改修工事 シ. 14号棟屋上防水工事 ス. 20号棟エレベータ更新工事</p>	<p>ア～ク 取組の有無</p> <p>ケ・コ 取組の有無</p> <p>サ～ス 実施の有無</p>	<p>ア・イ. 各種アンケートの結果より本校への入学を決定した理由を明確にして、教員全体で共通認識している。また、変化する生徒や保護者のニーズを把握して、新しいコースや専科を設置することや新しい取り組みを実施することにより、新たなブランドづくりに努めている。(○) ウ. 広報ツールの新たな活用やマスコミへの働きかけを行っているがまだ不十分。(△) エ. あらゆる機会を捉え、クラブや自治会を中心に取り組みを進めている。(○) オ. より楽しく充実した内容となるように、様々な工夫をしている。(○) カ～ク. いろいろな調査により、効果的な広報活動の方法と内容の工夫・実践を続けている。(○)</p> <p>ケ. これまでの取り組みの評価すべき点や修正すべき点を明確にして設置したコースについて、積極的な広報活動に努めている。(○) コ. 大阪樟蔭女子大の一部の学部学科との連携を進めている。他の学部学科との連携強化も企画・推進している。(○)</p> <p>サ～ス. すべて予定通り実施した。(○)</p>

6 安全 安心な 学校づく り	(1)教育相談の充実	ア.担任等による個別相談を中心とした相談体制づくり イ.カウンセリングマインドについての研修による担任等の教育相談力の向上 ウ.スクールカウンセラーとの連携による一人一人のサポート	ア～ウ 取組の有無	ア～ウ.すべて実施しており、さらなるきめ細かな体制づくりに努めている。(○)
	(2)安全確保の徹底	エ.避難経路の徹底と実地訓練の実施 オ.救急救命訓練の実施 カ.自転車安全利用の促進講習の実施	エ～カ 実施の有無	エ～カ.すべて実施した。(○)

4 自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見

自己評価アンケートの結果と分析	学校評価委員会からの意見（平成31年3月27日）
<p>○生徒[平成30年7月実施]</p> <p>学校生活や家庭での状況や意識について、30項目についてのアンケートを行った。そのうち、肯定的な回答が特に多いもの（概ね8割以上）の一部を挙げる。また☆印は9割以上のもの。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の雰囲気は良い(☆) ・ルールやマナーを守り、節度ある行動がとれている(☆) ・挨拶をよくしている ・学校へ行くのは楽しい ・今のクラスが気に入っている ・学校内にいろんなことを話せる友人がいる(☆) ・家の人とはよく話をする(☆) <p>全体的な傾向は昨年度と同様であるが、学校生活の満足度や友人との関係性についての評価はかなり高くなっている。</p> <p>○保護者[平成30年10月実施]</p> <p>学校の様々な取り組みについての満足度調査を実施した。その結果、中高合わせて全体的な保護者の満足度は高いもの（約9割）であり、保護者から見た生徒の満足度も概ね9割弱となっていた。特に「生活指導」についての評価は中高ともに高い。入学理由については中高共に高い順から、「伝統と実績」「通学の利便性」「コースやクラブ」であった。また、本校生のイメージとしては高い順に、「明るい」「真面目である」「落ち着いている」となっている。</p> <p>○教職員[平成31年2月実施]</p> <p>現在の取り組みについて、24項目についてのアンケートを実施した。生活指導や学校行事に対する自己評価は昨年と同様高いものであった。特に自己評価が昨年に比べて高くなっているのは、学校の特色・講座の開講・生徒の自治会活動である。また、学校全体で取り組むべき課題に対する意識は向上しているが、学習面での取り組みや行事の在り方についてはまだ工夫・改善すべき点がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT教育がかなり充実しているが、内容についての具体的な説明や、その効果などについて、さらに積極的にアピールしたほうが良い。 ・HPがかなり充実していて、見ていて楽しく感じられる。広報的にも効果があると思う。 ・樟蔭を選んだ理由について「周りの人の勧め」が多い。周りの人が樟蔭をどのように知っていただいているかの分析をすることが大切。 ・情報モラルについてのアンケートを実施して、現状把握などの結果を基にした次の対策を検討すべきでは。 ・樟蔭の取組みには、目指している「一人一人を育てる」という姿勢がよく感じられる。 ・いわゆるボリュームゾーンの生徒数を伸ばす方法を検討する必要があると思う。 ・生徒も教員も挨拶をする習慣が定着している。良い人間関係が生まれてくる。 ・生徒へのマナー指導が行き届いている感じを受けた。 ・自転車通学の生徒は少ないが、マナー講習も適宜実施してもらいたい。 ・中学校の卒業式に参加したが、大変感動的であった。 ・教員と生徒との距離が近いのは良いが、言葉遣いにも気を付けた指導を進めて欲しい。 ・特進コースを国際教養コースに名称変更して、志願者が増えることを期待しているが、生徒の変化についてまとめて欲しい。また、保護者の期待についてはどうか。 ・海外へ出ていくという意識や意欲を育てて欲しい。